

北海道の公共ホール研究（４）北広島市芸術文化ホール（花ホール）を事例として

著者	平井 伸之
雑誌名	北翔大学短期大学部研究紀要
巻	55
ページ	159-166
発行年	2017
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002509/

北海道の公共ホール研究（４） —— 北広島市芸術文化ホール（花ホール）を事例として ——

A Study of Public Hall of Hokkaido（４） —— Case Study of Kitahiroshima City Arts Hall ——

平 井 伸 之*
Nobuyuki HIRAI

I は じ め に

「北海道の公共ホール研究（１）」（2014 平井）、「北海道の公共ホール研究（２）」（2015 平井）及び「北海道の公共ホール研究（３）」（2016 平井）において、士別市朝日町の「あさひサンライズホール」、砂川市の「砂川市地域交流センターゆう」と斜里町の「斜里町公民館ゆめホール知床」の活動を調査した。

本研究では、公共ホールを劇場機構と客席を有する公立文化施設として定義しており、通常、劇場施設の他、研修室や会議室等が設置され、地域の文化芸術振興の拠点としての位置づけがなされている。

前出の「北海道の公共ホール研究（１）」（2014 平井）では、北海道内のホール数、ホール入館者数、高校演劇全道大会の参加校数の推移から、北海道における舞台芸術に関心がある住民の動向は、減少傾向にあるという仮説が成立すると考えた。

更に、全国の公共ホールの運営状況について、貸館事業稼働日数、自主事業稼働日数、ホール稼働率の３つの角度から考察し、全国的に運営が順調なホールと不調なホールとの二極化が起こっており、北海道ではホール稼働率が全国最低であることから、二極化はより深刻であるという仮説が成立すると考えた。

上記２つの仮説が成立するならば、この２つの仮説は相互に影響しあい、舞台芸術に関心のある人口は更に減少し、運営が不調な公共ホールは更に苦しくなる悪循環を生み、引いては北海道の舞台芸術の衰退に繋がることに強い問題意識を持ち、北海道内における特色のある公共ホール運営の事例を調査することが本研究の目的である。

本稿では、北広島市にある「北広島市芸術文化ホール」の活動を調査し、その特徴を明らかにすることとしたい。

* 北翔大学短期大学部ライフデザイン学科

Ⅱ 北広島市芸術文化ホールの概要

１）北広島市概況*¹

北広島市は、道都札幌市の南東部に位置し、総面積は118.54平方kmである。平成28年3月末の人口は59,140人となっている。地理的には北海道中央部に広がる石狩低地帯の西南部にあり、北海道を形成している西南部山塊から北東に広がる野幌丘陵の南端部に位置する。東は千歳川を挟んで南幌町、長沼町と接し、南は千歳川の支流島松川を境に恵庭市と接する。西は島松山から北東に伸びる尾根筋と、野津幌川とその支流大曲川を境に札幌市と接する。北は千歳川の支流志文別川と野幌丘陵を超えて野津幌川に溪谷を開く熊の沢沿いを境に江別市に接している。

交通は、札幌と千歳、苫小牧、室蘭方面を結ぶJR千歳線、国道36号線と道央自動車道が南北に縦断、札幌と十勝を結ぶ国道274号線が東西を横断し、重要な交通の動脈となっている。

市内は、北広島駅をはじめ、公共施設、金融機関、商店など主要な施設が集積する東部地区、札幌圏の住宅不足対策のため道営最大規模の住宅団地として昭和40年代半ばから開発が始まった北広島団地地区、古くから農業が盛んであった西部地区、道央自動車道北広島インターチェンジがあり工業団地として発展し、近年では郊外型商業施設の立地が著しい大曲地区、札幌のベッドタウンとして成長する西の里地区の5つの地区に分けることができる。

北広島という地名は、明治17年に広島県から団体入植があり、本格的な開拓が始まったことに由来する。

２）北広島市芸術文化ホール建設の経緯*²

北広島市芸術文化ホール（以下「花ホール」と略す。）は、北広島市により設置され、北広島市教育委員会が運営する公共ホールとして平成10年10月1日に開館し、同一建物内には図書館が設置されている。市民に生涯学習の場と、文化・芸術活動の鑑賞及び創造の場を提供する拠点となることを目標とし、活動を継続している公共ホールである。

花ホールの所在するJR北広島駅東口は、北広島市東部地区に位置する。東部地区の市街地開発は、JR北広島駅西口の昭和40年代から始まる北広島住宅団地造成を中心に進められ、東口周辺は農協倉庫などの老朽化した建築物や空き地などがあり、旧来の農村風景が残るなど、西口の北広島住宅団地側に比べ開発格差が顕著であった。更にJR北広島駅は東西に渡る橋上にある駅で、住民の利便の向上と都市の顔づくりを兼ねた駅の東西を一体化する街づくりの検討が進められていた。平成元年に広島町（当時）施行の北広島駅東土地区画整理事業が事業計画として決定し、平成2年度より本格的な工事が実施されることとなった。

その後、「ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業」指定（建設省）、「街並み・街づくり総合支援事業」採択を受け、北広島駅の移転に伴う新駅舎の建設や東西連絡橋のドーム化と併せて、「顔づくり事業」の目玉となる文化施設の建設が進められることとなった。

平成3年に教育委員会内に「文化施設建設準備室」が設置され、住民懇談会や道内外のホール

視察などを精力的に実施，平成4年には住民代表による「文化施設計画委員会」が組織され，施設の規模・機能等について検討後，基本構想答申が行われた。答申では文化会館機能と図書館機能を有する文化施設を建設することが提言された。平成6年には施設の機能を文化会館機能と図書館機能とし，ホールは2ホールから1ホールに変更，常設ギャラリーの設置，図書館講堂をホールに統合する内容が庁議決定され，建設基本計画が定められた。同年，基本設計，平成7年実施設計の段階を経て，平成8年に建設工事着工，平成10年10月1日開館に至る。北広島市の市制施行を記念する総建設費約54億2,100万円をかけた大事業であった。

3) 花ホール施設概要及び利用者数^{*3}

建物全体は，鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄筋コンクリート造の地上3階，地下1階建てで延床面積9,394㎡からなる公立文化施設であり，北広島市中心部のJR北広島駅東口に隣接している。建物は曲線を多用したデザインで，北広島駅東口に面して利用者を出迎えるような形でエントランスホールがある。施設の北側に花ホールが，南側に図書館が配置されている。

ホールは，音響の良い伝統的なシューボックス型（写真1）で，間口15.6m，奥行12m，高さ13mとなっており，ステージの両側壁（反射板）と天井反射板が可動する機構を採用している。側壁をそれぞれ下手は綱元まで，上手は袖の壁まで引き上げて寄せることで両袖舞台が形成され，天井反射板の上に吊り込んである幕や照明機器を降ろしてくるとプロセニウム型ステージ（写真2）に転換できる全国でも珍しい舞台機構となっている。室内楽などの音楽公演

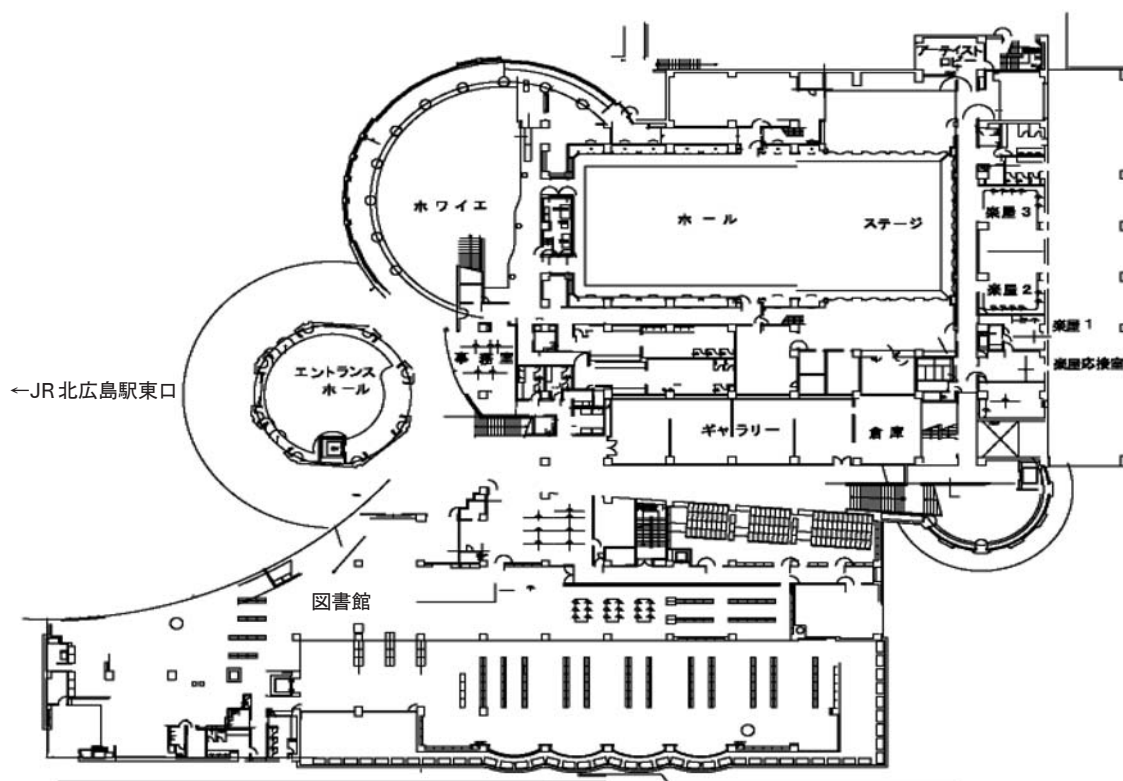


図1：花ホール配置図^{*4}

写真1：シューボックス型ステージ時^{*5}写真2：プロセニウム型ステージ時^{*6}

では、音響の良いシューボックス型ステージとして使用し、演劇公演など袖が必要な場合はプロセニウム型ステージとして使用することができる。

客席は観やすさを配慮し互い違いに配置された1階512席、車椅子席3席、2階バルコニー席82席の計597席を備える。開放的なホワイエには、クロークと飲み物が楽しめるバーコーナーが設置され、ロビーコンサートも行われている。ホールに付随する施設として、楽屋3室と楽屋応接室、アーティストロビーが完備されている。

その他、1階には移動壁により、展示室にもオープンギャラリーとしても使用可能なギャラリーが設置されている。2階には活動室

4室、市民企画室、練習室1・2がある。活動室1・2は移動壁を動かすことで一体利用が可能（270名収容）、サロンコンサートやレセプションなどに利用できる。どの施設も入念に防音が施されており、和太鼓演奏以外であれば同時開催可能とのことである。

花ホールの利用者数は、平成26年度95,433人、平成27年度99,173人となっている（表1）。単純平均すると一日当たり約300人がホールを利用しており、ホール稼働率は80%を超える高い水準である。また、併設された図書館には一日平均700人超の利用者があり、施設全体としては一日当たり約1,000人、年間30万人を超える市民が利用している。

表1：花ホール利用者数及び稼働率^{*7}

	平成26年度		平成27年度	
	利用者数 (人)	稼働率 (%)	利用者数 (人)	稼働率 (%)
ホー ル	32,186	84.4	31,410	82.2
楽 屋 1	842	40.6	895	35.9
楽 屋 2	1,821	44.1	1,888	40.6
楽 屋 3	1,898	49.2	1,860	45.1
活 動 室 1	9,938	73.3	9,589	71.1
活 動 室 2	9,411	82.9	10,930	89.2
活 動 室 3	4,832	74.9	5,829	84.8
活 動 室 4	4,055	86.3	4,691	85.4
練 習 室 1	10,864	95.6	10,036	96.8
練 習 室 2	5,010	94.6	5,354	95.6
ギャラリー	13,564	45.4	15,754	47.6
そ の 他	1,012	35.9	937	35.2
合計利用者数	95,433		99,173	
開館日数	315日		315日	

Ⅲ 花ホールの運営上の特徴と主催事業の概要

1) 花ホールの運営上の特徴^{*8}

北広島市直営の公共ホールである花ホールの運営は、市民とのパートナーシップにより行われている。ホールの目玉である主催事業は、市からの年間約1,100万円の予算措置を受け、市民を中心に組織された運営委員会によって選定されている。その内容は、舞台芸術鑑賞機会の提供にとどまらず多岐に渡るが、デリバリーコンサート事業や若手音楽家の登竜門となっている若手芸術家育成事業など特徴のある事業が盛り込まれている。

また、ホール利用者への支援体制として、音響・照明を含め舞台芸術に関する専門的な知識経験を有する技術スタッフが3名常駐しており、直接利用者と接し、相談・アドバイス・各種技術提供を行う。ホール技術スタッフの存在は、市民の舞台芸術活動の質的な向上、企画力向上や舞台技術の習得などの観点から極めて重要である。

更に花ホールには、ホール公演をサポートする「花ホールスタッフの会」が組織されている。「花ホールスタッフの会」は公演時の表方（受付・会場案内・クローク・バーコーナー）の運営だけではなく、裏方（舞台進行補助・アナウンス・ピンスポット操作・舞台設営撤去・舞台道具製作）のサポートもボランティアで行う。ボランティアスタッフは、ホールでの公演において必要不可欠な存在となっている。

2) 主催事業の概要

花ホールでは、主催事業として平成27年度は6つの事業を行った。「芸術鑑賞事業」は、落語、クラシックコンサート、日本の伝統音楽、演劇、ポピュラーコンサートなどのホールを使用した舞台芸術鑑賞、市内各地区へのデリバリーコンサート、映画鑑賞など多岐に渡る舞台芸術鑑賞機会を提供している。「学習機会提供事業」では、招聘したアーティストによる小学生対象鑑賞会、市民向けの音楽セミナーやホールを市民に紹介するセミナーなどの企画、「芸術体験事業」では、中学生を対象としたコンテンポラリーダンスのアウトリーチが行われた。「地域連携事業」では、市民劇団との連携事業として年末恒例の「きたひろ笑劇場」などの取り組みが継続されている。

花ホールは非常に音響が良く、室内楽などの公演には適したホールとして認知されている。そのため、若手音楽家に発表の機会を提供する「若手芸術家育成事業」がオープンから一貫して企画されている。毎月1回水曜日に行われ、ホールではなくホワイエを利用した無料コンサートであり、若手音楽家の登竜門的な事業として継続されており、平成27年度末で通算224回を数える。

平成27年度に実施された主催事業の概要は以下のとおりである。

表２：平成27年度花ホール主催事業*⁹

大区分	小区分	事業名	日時	入場・参加者
芸術鑑賞事業	舞台芸術鑑賞	きたひろ寄席　その参	6 /27(土)	170
		夏の夜のホワイエコンサート　出演：山本将平	7 /17(金)	144
		和太鼓松村組公演	9 /25(金)	452
		札幌交響楽団北広島公演　指揮：尾高忠明	11/ 4 (水)	370
		南阿佐ヶ谷の母	12/ 1 (火)	469
		秋川雅史コンサート2016 GOLDEN VOICE	1 /31(日)	497
		ONEOR8「そして母はキレイになった」	2 /17(水)	445
	デリバリー	大曲デリバリーコンサート　出演：新田親子	10/10(土)	442
		西の里デリバリーコンサート　出演：ヒカブレフ	9 /19(土)	172
		西部デリバリーコンサート　出演：kiki	11/21(土)	208
	映画鑑賞	GW 映画上映会「禁じられた遊び」	5 / 3 (日)	110
		GW 映画上映会「シェーン」	5 / 4 (月)	148
		GW 映画上映会「シャレード」	5 / 5 (火)	129
ギャラリー事業		ギャラリー展「木郊外学校」　選抜された学生による展示	11/ 6 (金)～17(火)	1,275
学習機会提供事業		和太鼓松村組公演ホール学校鑑賞会　市内小 5 対象	9 /25(金)	598
		市民合唱セミナー	1 /11(月)	81
		吹奏楽セミナー	2 / 7 (日)	208
		花ホールがもっとわかるセミナー	3 /12(土)	72
芸術体験事業		ダンスユニット「セレノグラフィカ」によるコンテンツ ポラリーダンス・アウトリーチ　市内 2 中学校対象	11/17(火)～20(金)	365
若手芸術家育成事業	春の音楽会	第16回春の音楽会（10組19名）	4 /19(日)	233
	ロビーコンサート	第213回　松原郁美・畔田亜加里	4 / 8 (水)	105
		第214回　法本あゆみ	5 /13(水)	70
		第215回　亀谷泰子・塚田馨一	6 /10(水)	77
		第216回　田中彩世利・金井亜沙美	7 /15(水)	101
		第217回　西村彰紘・難波陽介・佐藤香奈	8 /12(水)	98
		第218回　中村有里・上野智世	9 / 9 (水)	94
		第219回　按田佳央理・他 1 名	10/14(水)	74
		第220回　鈴木友美・佐藤文奈・早川美紗	11/11(水)	103
		第221回　田中望未	12/ 9 (水)	72
		第222回　富田果奈・松本愛弓	1 /13(水)	113
		第223回　桐越麗・池田彩	2 /10(水)	100
		第224回　佐藤香奈・紅林さやか	3 / 9 (水)	83
		地域連携事業		道都大学連携事業「自主事業ポスターコンペ」
市民劇団連携事業「きたひろ笑劇場2015」	12/ 6 (日)			509

Ⅳ お わ り に

本研究では、市民とのパートナーシップにより運営されている公共ホールの事例として、花ホールの活動について論じてきた。花ホールでは、市民を中心に組織された運営委員会により自主事業が選定され、多様な舞台芸術鑑賞機会の提供、市民の文化芸術活動への支援が継続して行われている。特に若手音楽家育成事業のロビーコンサートは、開館以来継続している事業である。また、ボランティアスタッフによるホール公演の表方、裏方をサポートする形の市民参加が定着しているのは、花ホールに常駐する技術スタッフとの協力関係が良好であることを示している。

花ホールは、JR 北広島駅西口と比較すると開発格差が顕著であった東口を活性化し、駅の東西を一体化する街づくりの顔として建設された。花ホールを拠点とした生涯学習、文化芸術振興支援によるまちづくりの継続が、年間約10万人が利用する実績を残している。更に同一建物内に図書館を設置したことにより、市民の利便性向上を図りつつ賑わいを創出することに成功している。

花ホールは、日本音響家協会と日本劇場技術者連盟の選定する優良ホール百選に選ばれている。認定基準は、舞台設備が整備されていることその他、スタッフの技術力や利用者へのサービスが適切であることなどが評価項目となっている。北海道における公共ホール運営を考える上で、また、北海道で舞台芸術活動に携わる上で、花ホールの今後の活動の推移に注目していくこととしたい。

文献・出典

- * 1 Ⅱ 1) 北広島市概況については以下を参考にした。
 北広島市（平成19年）：北広島市史 上巻 P 3・4
 北広島市公式HP <https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp>
- * 2 Ⅱ 2) 北広島市芸術文化ホール建設の経緯については以下を参考にした。
 北広島市（平成19年）：北広島市史 上巻 P415
 北広島市（平成10年）：芸術文化ホール・図書館 建設概要 P 1～8
- * 3 Ⅱ 3) 花ホール施設概要及び利用者数については以下を参考にした。
 北広島市（平成10年）：芸術文化ホール・図書館 建設概要 P 9～15
- * 4 図 1：花ホール配置図については以下から作成した。
 北広島市教育委員会（平成26年）：芸術文化ホール使用ガイド P30
- * 5 写真 1：シューボックス型ステージ時については以下から作成した。
 北広島市（平成10年）：北広島市芸術文化ホールパンフレット P 5
- * 6 写真 2：プロセニウム型ステージ時については以下から作成した。
 北広島市（平成10年）：北広島市芸術文化ホールパンフレット P 6

- * 7 表 1：花ホール利用者数及び稼働率については以下から引用した。

北広島市（平成28年度）：教育委員会提供資料

- * 8 Ⅲ 1）花ホールの運営上の特徴については以下を参考とした。

北広島市（平成28年度）：教育委員会提供資料

北広島市公式 HP <https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp>

- * 9 表 2：平成27年度花ホール主催事業については以下から引用した。

北広島市（平成28年度）：教育委員会提供資料

（付記）

本研究は、平成28年度北方圏学術情報センターの助成を受けて行われている。